顕現後第６主日　　福音書を比べる　　２０２２．２．１３．

新約聖書には最初にイエス様の言葉や行動を書き記した福音書が４つ出てきます。比べると、内容が少しずつ違ったり、全く違うことが書かれたりしていて、面白い発見をすることがあります。たとえば、イエス様の誕生物語を書いているのは、マタイとルカのふたつの福音書です。どうも私たちは、ルカに描かれた、美しい物語の影響を受けすぎていて、マリヤさんへの天使のお告げや、ナザレからベツレヘムへの旅。羊飼いたちへの天使のお告げと、羊飼いの訪問。そして、４０日目のエルサレムの神殿への宮参りなど、喜びに満ちた物語、という印象があります。ルカによる福音書は、ユダヤ人以外の、外国人たちに向けて、世界の救い主が生まれた、うれしい知らせを書こうとしているんです。

一方、マタイによる福音書の方では、外国人である東方の占星術の学者たちがお祝いにやってきますが、その後は、ベツレヘムの２歳以下の男の子たちは殺されてしまい、それを逃れるように、ヨセフとマリヤ、そして赤ちゃんのイエス様は、エジプトへ逃げて行くことになります。このように、生命の危険の中で、イエスさまが誕生した、恐ろしい出来事として描いて、マタイは何が言いたかったのでしょうか。

この福音書は、旧約聖書をよく知っている、ユダヤ人に向かって書かれているもので、昔、エジプトで、イスラエルの人々が奴隷だった時、モーセが、王様の迫害を逃れて、ナイル川から引き上げられた生い立ちを読者に思い出させて、モーセのような立派な指導者が誕生したことを知らせたかったのです。

さて、今日の福音書には、「貧しい人々は、幸いである。神の国はあなたがたのものである。」という言葉が出てきました。私たちは、こちらの言葉よりも、マタイによる福音書の５章の「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」の方がなじみがあるかもしれません。
しかし、このふたつは、ただ、心がついているか、ついていないか、だけの違いではありません。

マタイの方は、山に登られて、弟子たちに語った言葉になっています。これは、モーセが神の山シナイ山で十戒を与えられたのを思い出させ、イエス様は、新しい掟を与える、モーセのような指導者だと、ここでもマタイは言いたいのです。

それに対して、今日のルカの方は、弟子たちと山から下りて、平らな所に立っておられます。そして、そこには、ユダヤだけではなく、近くの外国からも人々がやってきて、イエス様を取り囲んでいます。そして、教えを聞くだけでなく、病気を癒してもらって、そのあとで、イエス様は、弟子たちに、「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。」と言われたのです。ルカは、イエス様の説教が、わたしたちの現実からかけ離れた、遠い山の上で語られたのではなく、わたしたちの生活の真ん中で、悩みのある世界に対して語られるものだ、と言いたいのです。そして、神の国は、マタイのように「その人たちのもの」ではなく、目の前にいる「あなたがたのものだ。」と語りかけている、というわけです。

それじゃ、実際に、歴史的にはイエス様は、マタイの方の「心の貧しい人々」の方を語ったのか、それとも、ルカのように「あなたがた、貧しい人々は幸いだ。」と言ったのか。歴史的にはどうなんだろう、という疑問がわいてきます。

これについては、今から２９年前ですが、「ファイブゴスペルズ」という本が出て、一応の結論が出ています。「５つの福音書」というタイトルなんですが、これは４つの福音書に加えて、トマスによる福音書という、２０世紀になって発見された重要な書物を加えてのことです。それはさておき、大勢の新約聖書の学者が、福音書のイエス様の言葉を投票で、事実に近いものから、全くのフィクションまで、４ランクに色分けしたのです。その結果、ルカの方は、事実だろう。しかし、マタイの方は、それより１ランク下の、イエス様の言葉が、ちょっと加工されている、という結論が出ています。

つまり、イエス様は、ルカのように、貧しい人に直接「神の国はあなたがたのものだ。」と言ったけど、マタイの福音書を聞くことになった教会の人々は、どうも豊かな人々が多かったので、「心の貧しい人々」というふうに、言葉を和らげたのではないか、ということなんです。そして、ルカでは、幸福な人を４つの例を挙げて述べたあと、不幸は人を４つ例をあげているのに、マタイの方は、８つの幸福な人の例を挙げることで終わらせ、「富んでいるあなた方は不幸である。」などは省略したのではないか、ということになるわけです。

イエス様が、この聖句を言われた背景には、ナザレに帰って、会堂でイザヤ書６１章を読まれたことが念頭にあるのだろうと思います。（ルカ４：１８～１９）
「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」

では、どうして、貧しい人が、裕福な人より幸いなのか、という本質的な問題に入ろうと思います。

これについては、今日の旧約。エレミヤ書の１７章の５節、７節などが、それを説明してくれているように思えます。

５節「主は言われる。呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし、その心が主を離れ去っている人は。」７節「祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころとなられる。」とあります。私たちは、川のほとりに植えられた木であって、川である神様から豊かに恵みの水をいただいている。というわけでしょう。

私たちにとって、大切なことは、神様につながっていることです。ところが、豊かな人は、他に頼るものがありすぎて、なかなか神様に頼ることが出来ない。ところが、貧しい人は、他に頼るものがないので、神様に頼ることが、容易である、ということで、幸いなのでしょう。ただし、神様に頼ろうとせず、単に貧しいだけなら、幸いでもなんでもない、ということになります。

今日は、ひとつ、この箇所についての面白い訳を紹介しましょう。
カトリックのフランシスコ会修道士、本田哲郎という神父さんが、小さくされた人々のための福音というタイトルで、４つの福音書と使徒言行録を訳しておられますが、
「貧しい人々は幸いである」というところを「心底貧しい人たちは、神からの力がある。」という風に思い切った訳をしておられます。神様から力が与えられるので幸いだ、ということになるでしょうか。

私たちは、日ごろの、日常生活で、いろいろと問題を抱えて、しばしば自分の力、自分自身に信頼して、解決してやろう、と頑張ります。ああでもない、こうでもない、どうしたものか、といろいろやってみます。そして、うまくいかなければ、頭を抱えて悩んでしまいます。そうやって、自分の力で問題の解決を考えている時、エレミヤが言う「その心が主を離れ去っている」ということになるでしょう。

神様ご自身が、私の現在悩んでいる問題を、解決してくださる。神からの力がある。ということを私たちが忘れてしまっていることに、本当の悩みがあるように思えます。

自分の抱えている問題の解決の努力をやめておけ、というのではありません。しかし、神様が必ず、その問題をよい方向に向かわせてくださる、そして、解決してくださる、と信じていること、そのような希望を持っていられるから、私たちは幸いなのではないでしょうか。

そのような信頼を、イエス様の言葉の中に見つけてゆきたいと思います。